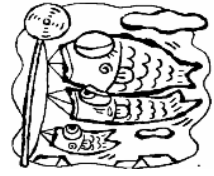


ぷらう 30号



発行：TEACCH プログラム研究会

1. 巻頭のことば（新会長挨拶）

内山 登紀夫

TEACCH 研究会の皆さん

今年から会長をさせて頂くことになりました。前々会長の牧野先生、前会長の寺尾先生の後を引き継ぐことになるわけです。もともと長がつくことは超がつくほど苦手ですので、なんとか逃げようとしたのですが、お引き受けすることになりました。ご迷惑をかけないように努力しますが、さてどんな会長になるのでしょうか。

TEACCH の日本における認知度は高まってきているように思えますが、TEACCH という言葉が知られることと、TEACCH が理解されることは別の次元の問題のようです。

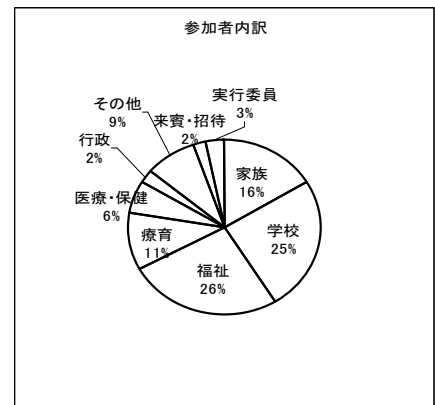
ちょっと逆説的かもしれませんが、私たちの究極の目的は TEACCH を広めることではなくて、自閉症の子どもと成人に適切な支援を行うということでしょう。自閉症の支援を考えたときに TEACCH のフィロソフィーに立脚し、その上で TEACCH で開発した技法を参考にすることが自閉症の人々への支援になると考えて私は自閉症の臨床を行ってきました。TEACCH は一部の人にとっては権威となり一種の偶像崇拜の対象にさえなっているように思います。もちろん本来の TEACCH は偶像でもなければ権威でもありません。TEACCH は宗教ではなく科学ですから、理解の対象であって信仰の対象ではありません。私は疑い深い人間なので「TEACCH だから良い」とか「TEACCH のスタッフが言ったから正しい」と思ったことはありません・・・というのは嘘で「TEACCH だから良い」などつい思ってしまうがちです。でも「TEACCH だから良い」と思うのでは駄目なのだ、一瞬立ち止まって考えるように自分に言い聞かせてます。ノースカロライナの TEACCH 部の支援の方法やシステムも年々改変が進められています。私たちも自閉症の支援を考える以上 TEACCH を通じて学ぶとともに TEACCH 以外の自閉症関連の勉強もする必要があります。TEACCH のスタッフも幅広く自閉症関連の情報を勉強しています。別に TEACCH は宗教じゃないので、TEACCH 以外のことを勉強しても破門にはなりません。広い視野にたつて自閉症の支援を考えていきたいものです。

2. TEACCH カンファレンス イン 大阪報告（実行委員長）

TEACCH カンファレンス イン 大阪を終えて

TEACCH カンファレンス イン 大阪 実行委員長 新澤 伸子

TEACCH プログラム研究会15周年記念事業「TEACCH カンファレンス イン大阪」が去る2月7日～8日にかけて、メルパルク大阪で開催されました。最終的には1000人を超える申し込みがあり、大盛況のうちに無事2日間のプログラムを終了することができました。参加者のうち3分の1が研究会会員、3分の2は会員外の方の参加でした。参加者の職種の内訳は図のとおりです。家族・学校・福祉・療育・医療・保健のさまざまな分野の方々の参加がありました。来賓として厚生労働省障害福祉専門官 大塚晃氏、文部科学省特殊教育調査官 石塚謙二氏、日本自閉症協会副会長 須田初枝氏にご臨席頂き、招待・参加含めて50名近くの行政関係者の参加がありました。



プログラム1日目は当研究会顧問の佐々木正美先生の司会で、メジボフ先生、フェハティ先生にご講演を頂きました。15周年を迎えるにあたり、もう一度「TEACCH の理念」の再確認をすること、さらに就労支援、高機能自閉症の人たちへの支援のノースカロライナの現在の発展を紹介いただくこと、という私たちの要請に応じて、すばらしい内容のご講演を頂きました。

プログラム2日目は、当研究会の8支部からの実践報告がありました。幼児・学齢期から青年・成人期、さらに重度の人から高機能の人の支援にわたるバラエティーに富んだ報告会となりました。一つ一つの報告に対して、メジボフ先生、フェハティ先生に1日目の講演のキーワードをおさえながら丁寧なコメントを頂けたことも、TEACCH の実践の底を流れる哲学・スピリットを会場の皆様を感じ取って頂けたのではないかと思います。

会場では、理事会で検討を重ねてきた当研究会のリーフレット「TEACCH プログラム研究会への入会のお誘い」が今回初めて配布され、また15周年記念オリジナルロゴ入りのマルチポケットエプロン200個も完売しました。

実行委員会は大阪・京滋支部運営委員を中心に30名で組織されました。1000人規模の大会運営、海外講師招聘、省庁への後援名義申請等、当研究会としても初めてのことばかりで、不安がいっぱいでしたが、理事・顧問の方々、支部事務局、実践報告頂いた会員の方々、全国から参加頂いた会員の皆様のご協力で、なんとか無事大会を終えることができましたことを、心から感謝申し上げます。実行委員会としては、後は大会録作成が残されていますが、今回参加できなかった多くの会員の方々にも、大会録を早くお届けできるよう努力したいと思っています。

◆ 感想(福岡支部)

『TEACCHカンファレンス in 大阪 に参加して』

若久養護学校 稲石恭子

2月7日(土)～8日(日)と大阪へ行って参りました。実は、木曜からインフルエンザにかかりフラフラしていたのですが、「絶対に参加したい！」と思い、特効薬を飲んで金曜の夜から新幹線で大阪へ向かいました。大阪に着くと急に元気が出てきて、夜はお好み焼きを食べました！

さて、1日目の内容ですが、最初に佐々木正美先生よりごあいさつがありました。1982年に10名で渡米することになったいきさつや、翌年日本で初めての TEACCH の講演に至った経緯等をお話して頂きました。それから20年以上が立ち、少しずつ少しずつ全国に広まり、このような大きな会に至ったのだなあ…と改めて実感しました。

そして、いよいよ午前中のゲーリー・メジボフ先生の講演が始まりました。先生の講演を聴くのは3回目でしたが、毎回はっとさせられます。『敬意を持って、自閉症の人の立場に立って考えること』は、分かっているつもりでも、日々の実践の中で常に考えているかと問われると自信がなくなってしまう私です。また、『身の回りで起こっていることが理解でき、自分の経験や活動を意味ある物として理解する』為にスケジュール等をしているのだということ、再認識させられました。それから、TEACCH の考え方としてずっと変わらない中核的なものと、どんどん改善研究されていっているものとを、事例等を交えながら教えて頂きました。

午後からは、キャサリン・フェハティ先生より、高機能自閉症の人への支援として『私たちにできる10の事柄』を、カウントダウンしながら教えて頂きました。その中で、コミュニケーションの方法の1つとして、コンピュータを用いて会話をする事で気が楽になったという高機能自閉症の方の声から、『会話がたくさんできても、視覚的な支援をしなくてよいということではない。』ということをお聞きしました。機能が高くてもそうでなくても自閉症であることに変わりはなく、基本的な支援は同じなのだということを実感しました。

2日目は、全国から様々な立場の方々による8組の実践報告を聴かせて頂きました。どの報告も時間が足りないほどの濃い内容で、特に自分とは違う立場の方々からの発表は本当に興味深いものでした。その中の1つ『通所施設における家庭支援の取り組み』という、強いこだわりやパニックが頻繁に見られる32歳の重度知的障害・自閉症の方に対する施設職員の取り組みの発表では、とても考えさせられました。保護者の方に協力して頂き、ご本人の部屋を用意したり、スケジュールを家庭でも取り入れたりとすることで落ち着いて過ごせるようになってきたものの、今まで彼には余暇がほとんどないということでした。そこで、32歳になった今から幼児・児童向けの遊具を少しずつ提示し、興味のある物を見つけて、徐々に年齢相応の余暇へとつなげていくということだったのです。学齢期の子どもたちの支援を行っている私にとって、幼いうちから余暇活動について支援することの重要性を教えられ、気を引き締め直させられた報告でした。

2日間参加をして、たくさんのシアワセをいただきました。これほど素敵な実践をしている方が全国にこんなにいらっしゃるのかと思ったからです。私はまだまだ初心者ですが、自閉症の方の支援者の一人として、多くの方と時間を共有できたことをうれしく思いながら、博多へと戻って参りました。



◆ 感想(香川支部)

「TEACCHカンファレンス in 大阪」に参加して

のぞみ園 六車 初江

私が知的障害者更生施設で働き始めて5年半が経ちますが、TEACCHを知ったのは、就職してからしばらくのことでした。それ以降、TEACCHに関する講演会に参加したり、本を読んだりまた実際に施設で利用者に対してTEACCHを実践してきたりしました。

今回TEACCHカンファレンスに参加して、改めて自分の仕事に対する取り組み方を見直すよい機会になりました。自閉症の方を理解するには、自閉症の方の立場に立ってみること、そして相手を尊敬し敬意をはらう、そうすることで愛情がわき相手を理解することができる、という話を聞き、毎日障害者の方と接している自分は、相手の立場に立つことを心がけてはいるもののほとんどできていないと痛感しました。しかし相手の立場に立って相手を理解することは私にとってはなかなか難しいことで、ついつい自分の立場で判断してしまい、後で後悔をするといったことの繰り返しです。“相手の立場に立つ”ということは基本であり、利用者がなぜこんなことをしたんだろうと思った時には、そのことを忘れないようにしたいと思います。

また、いろいろな実践や取り組みを聞き、現在自分が利用者に対して取り組んでいるTEACCH(まだ中途半端な状態)の参考にもなり、その利用者のためにも早く進めていかなければならないと感じました。

現在私は、自閉症以外の障害を持った人と関わることの方が多いのですが、TEACCHの考えは他の障害を持った方の生活をよりよくするためにも使えるものであり、日々生活する中で実践できることから取り組んでいけたらと思います。

◆ 感想(兵庫支部)

【TEACCHカンファレンス in 大阪】に参加して

希望の郷 生活支援員 石原 弘子

私が自閉症とTEACCHについて学びきっかけとなったのは、昨年5月にスタートした自閉症の方の為の措置内グループホーム『虹の家』のスタッフとなった事でした。

現場では、自閉症についての勉強をしながらも、日々起こる出来事に追われ試行錯誤の毎日です。TEACCHカンファレンスへは、そのような状況の中での参加でした。

2日間のカンファレンスは、メジボフ先生やフェハティ先生の講演をはじめ、全国で活躍されている先輩方の実践報告など多岐にわたる内容で、TEACCHの実際的な方法論だけに留まらずTEACCHの理念や価値観など、勉強になることばかりで実りの多いものとなりました。

虹の家のメンバーそれぞれが様々な生活の困難さを持っておられる状況の中、支援スタッフとして無意識の内に、表出している行動ばかりにとらわれてしまう事が多々あります。自閉症がどんな障害であるか知らないと相手の立場に立てない、相手が人であるだけに、支援はその人の立場になって進めて行きたいと感じる中、自閉症の方への支援は、まず自閉症を理解することが何よりも大切であるというメジボフ先生のお話は、その重要性を再認識する良いきっかけになりました。

また、対人援助の考え方として、ベストの答えを出すのは難しいが、今よりも少しずつ良くなっていくという考え方が必要だというお話がありました。いつも支援のあり方について「本当に良いのだろうか」「もしかしたらもっと他に良い方法があるのかもしれない」と迷い・悩み続ける中、肯定的にものを捉える事の大切さを教えて頂きました。自分の未熟さを情けなく思い反省する毎日ですが、再度原点に戻り、自閉症の理解を日々深められるよう学び続けていきたいと思っています。

『自閉症への正しい理解と尊重からすべての支援がはじまる』を常に心に置きながら…

3. 新支部紹介(東京支部)

<東京支部の紹介をさせていただきます>

TEACCHプログラム研究会東京支部 代表 茶木 弓

現在会員は 55 名、構成は保護者が一番多く、ついで保育士さんや福祉専門職、学校の先生となっております。長いこと関東地方では神奈川支部以外に TEACCH を学ぶ場がありませんでした。少ない機会でも TEACCH を勉強しながら自閉症の人たちに支援を続けていらしてきた専門職の方々と TEACCH の支援を子どもたちに！と願う親御さんの気持ちに支えられてようやく東京支部発足が実現しました。ここに至るまでには諏訪利明先生はじめ神奈川支部のみなさまに大変お世話になりました。紙面をお借りして、お礼申し上げます。ありがとうございました。

東京は狭い場所に人口が集中していて、〇〇療法の専門家も百家争鳴の土地柄です。それだけにほかの地域以上に厳しい状況の中、不安をいただきながらスタート致しましたが、ショプラー先生のおっしゃる「楽観するきもち」を大事に一歩ずつすすんでいこうと思っております。TEACCH 研の中から素晴らしい専門家が育ち、その専門家を支える家族がたくさんふえて、TEACCH の理念を次代に正しく伝えてくれることを願って活動しております。

顧問はじめ運営役員の多くは自称 AD/HD ばかりでお互い補いあいながら自助グループさながらの苦労の日々です。『AD/HD は自閉症を救う！』を合言葉に頑張ります。

諸先輩のみなさま方のご指導、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

4. ぷらう情報局

★理事会報告

<平成16年度第1回理事会報告>

日時: 平成16年2月6日 19:00~21:00

会場: 新大阪 ホテル ドーミーイン

参加理事: 内山、藤岡、新澤、村松、寺尾、志村、諏訪、宇山、出村、小野、松上、奥平、竹内、藤田、井上、緒方、伊藤、服巻、小田松尾(事務局)、東(事務局)、野畑

欠席理事: 牧野

@常任理事、支部代表理事の確認

- ・ 常任理事→内山、藤岡、村松、新澤、牧野
- ・ 支部代表理事が交代する支部
北海道: 寺尾→志村 神奈川: 諏訪→宇山 香川: 藤田→丸岡 福岡: 井上→緒方
佐賀: 伊藤→服巻

@東京支部の立ち上げについて

- ・ 代表: 茶木 弓
- ・ 会員数: 62名
- ・ 規約に基づき、東京支部を承認。
- * 東京支部の規約、会員名簿については事務局が保管

@平成15年度事業報告

1月25、26日 第5回実践研究大会(ウィリングス横浜)神奈川支部

1月25日 第1回理事会(ウィリングス横浜)

ぷらう28号の発行(2003年春号)

6月21日 第2回理事会(新大阪 コロナホテル)

ぷらう29号の発行(2003年秋号)

* このほかに15周年記念事業「TEACCH カンファレンス イン 大阪」の実行委員会が2回行われた。

@平成 15 年度会計報告

* 右図参照 ⇒

@平成 16 年度活動計画

2月6日 第1回理事会
 2月7、8日 《15周年記念事業》TEACCH カンファレンス イン 大阪
 2月8日 総会
 ぶらう30号 2004年春号
 6月19日 第2回理事会(大阪 13:00~18:00)
 8月20,21,22日 トレーニングセミナー(大府市:愛知支部)
 ぶらう31号 2004年秋号

@16年度会計予算

* 右図参照 ⇒

- ・ 予備費の額が大きいことについて
 →適正な執行とはいえない状況ではないか。
 支部の財政が厳しく、本部会費を見直す時期に来ているのではないか。
 本部会費を変更するのであれば、規約変更が必要になるが、通信費、運営補助費として計上するなら規約変更の必要はない。
- * 時間の関係で、予備費の執行については
 6月理事会で協議することになった。

@役員、事務局の交代

会長: 寺尾(北海道)→内山(常任)
 副会長: 村松(常任)留任
 諏訪(神奈川)→宇山(神奈川)

* 宇山氏の副会長就任により、神奈川支部から理事を選出することになった。
 事務局: 井上、松尾(福岡)→野畑、東(京滋)

@文書管理について

- * 15年間の文書が未整理の状態です。これまで事務局保管されてきた。
- * 今回、事務局が交代するにあたって文書整理と今後の保管について協議。
- ・ 保存する文書
 →記録的に必要なもの…ぶらう No1~の保存(現在、神奈川支部保管)
 →研究会設立に関する文書(藤岡理事管理)
 →各支部の規約、会員名簿など

- ・ 今後の文書管理は可能な限りFDで保存するようにする。
- ・ 現在ある文書については整理の後、新・旧事務局で引継ぎを行う。

@平成16年度総会について打ち合わせ

- ・ 2月8日 12:50~(メルパルクホール)

[収入]	
前年度繰越金	400,874
平成15年度 会費	
北海道支部	96,000
石川支部	196,000
神奈川支部	160,000
愛知支部	159,000
大阪支部	279,000
京滋支部	218,000
兵庫支部	19,000
鳥取支部	127,000
香川支部	59,000
福岡支部	165,000
佐賀支部	58,000
熊本支部	190,000
北海道トレーニングセミナー 残金	1,418
第3回実践研究大会(福岡) 残金	82,837
第3回実践研究大会(福岡) 大会繰り上げ	228,000
合計	2,439,129
[支出]	
第1回理事会交通費(1月)	273,180
第2回理事会交通費(6月)	210,280
理事会会場費	24,255
理事会雑費	2,650
第5回実践研究大会(神奈川)補助	200,000
ぶらう編集費	7,560
ぶらう発送費(各支部へ補助)※	276,160
会員1726名×¥80×2=¥276,160	
記念事業(TEACCHカンファレンス)補助	450,000
雑費	4,870
合計	1,448,965

[収入]	
前年度繰越金	990,164
平成16年度 会費	
北海道支部	86,000
石川支部	176,000
神奈川支部	144,000
愛知支部	143,000
大阪支部	251,000
京滋支部	196,000
兵庫支部	17,000
鳥取支部	114,000
香川支部	53,000
福岡支部	148,000
佐賀支部	52,000
熊本支部	171,000
合計	2,541,164 円
[支出]	
第1回理事会交通費(1月)	500,000
第2回理事会交通費(6月)	350,000
理事会会場費	20,000
理事会雑費	10,000
トレーニングセミナー補助	200,000
ぶらう編集費	10,000
ぶらう発送費(各支部へ補助)※	248,160
会員1551名×¥80×2=¥248,160	
予備費	1,203,004
合計	2,541,164 円

- ・ 議題
平成15年度活動報告、決算
平成16年度活動計画、予算
会長、副会長、事務局と新理事の紹介
東京支部の紹介
- ・ 議長…小田理事
- ・ 時間は20分以内。
- ・ 資料は150部準備。

@ 役割分担

平成 16 年度 理事および役割

支部	役割	理事氏名
常任理事		藤岡 宏
常任理事		牧野 恭典
常任理事	副会長	村松 陽子
常任理事	会長	内山 登紀夫
常任理事		新澤 伸子
北海道支部		志村 克美
東京支部		茶木 弓
神奈川支部	副会長	宇山 秀一
愛知支部	研修(トレセミ)	小野 宏
石川支部		出村 正栄
京滋支部	事務局	野畑 光代
大阪支部	研修(実践研)	松上 利男
兵庫支部	広報	奥平 俊六
鳥取支部		竹内 美智子
香川支部	広報	丸岡 玲子
福岡支部	研修(トレセミ)	緒方 よしみ
佐賀支部		服巻 繁
熊本支部	研修(実践研)	小田 浩三

* 新、旧の担当者間で丁寧に引継ぎをしておくこと

@ その他

① ぶらう30号(2004年春号)

- ・ 主な内容(案)→メールで承認を得る
新役員、事務局、理事、支部の紹介
平成15年度決算報告
支部の活動計画

* 次回、理事会について

- ・ 平成16年6月19日(土)13:00~18:00
- ・ 大阪(具体的な場所については後日、連絡)
- ・ 議題
『TEACCHカンファレンス イン 大阪』のまとめ(実行委員会)
トレーニング セミナーについて(愛知支部、研修担当)
予備費の執行について
第6回実践研究大会について(京滋支部、研修担当)

★ トレセミについて～愛知支部～

☆ トレーニングセミナー

(実行委員会を結成して計画の実施に向けて活動中です)

2004年8月20日(金)～22日(日)

大府市 福祉会館

募集人員：20名

参加費：5万円

講師(予定)：諏訪利明・藤岡 宏・村松陽子・新澤伸子・野畑光代(敬称略)の各先生の
 予定で計画進行中

5. 2004年度 各支部活動計画

☆ 北海道支部

北海道支部では、1月13日、支部総会が開かれ、本年の主な活動として5回の勉強会と会報の発行が承認されました。学習会の予定は次の通りです。(会場はいずれも教育大学函館校)

第1回 1月13日「自閉症・発達支援センターの現状と課題」

第2回 5月11日「自閉症支援における家族の役割」

第3回 7月13日「教育現場のバリアフリー」

第4回 9月14日「家庭のバリアフリーを考える」

第5回 11月9日「自閉症の地域生活支援施設の役割と展望」

これらの勉強会には、北海道(青森県も含む)という地域の広域性から会員が全て参加できる状態にはありません。録画やプリント等で交流を図っていますが、支部の課題です。

☆ 東京支部

勉強会は東京都渋谷区心障センターを主な会場とさせていただいています。勉強会に足を運んでくださった方々から…

「20年ぶりに原宿にきました！」とか「生まれて初めて原宿に来て、カンゲキです！」などの思いがけない反響に驚いています。会場周囲のおしゃれなカフェに、場に不釣り合いなグループが出没し長々と自閉症の話に花を咲かせるというちょっと不思議な光景がみられ、もうひとつの楽しみになっています。日曜日に定例勉強会を行い、平日の昼間に母親向けの講座を数回行っています

① 1/17(土)	講演会 諏訪利明先生	構造化について	東京ウイメンズプラザ	終了
② 2/29(日)	勉強会 長江清和先生	これからの特別支援教育 たんぽぽ学級からの発信	渋谷区心障センター	終了
③ 4/25(日)	講演会 内山登紀夫先生	自閉症スペクトラム障害 さまざまなケースを考える	国立オリンピック青少年 記念総合センター	定員 300名
④ 6/6(日)	勉強会 中山清司先生	行動マネジメント 問題行動を考える	渋谷区心障センター	定員 60名
⑤ 9/26(日)	勉強会 諏訪利明先生	評価と構造化(仮題) 評価からどう組み立てるか	渋谷区心障センター	定員 60名
⑥ 10	勉強会・実践報告 安倍陽子先生	学校の実践と家庭の実践を元 にディスカッションと評価	渋谷区心障センター	定員 60名
⑦ 11/7(日)	勉強会 中山清司先生	* グループワーク 支援グッズを作ってみよう!	渋谷区心障センター	定員 40名
⑧ 12/12(日)	勉強会 中山清司先生	* グループワーク 支援グッズを作ってみよう!	渋谷区心障センター	定員 40名

☆ 神奈川支部

期日	内容	時間・会場
2月7日(土)～8日(日)	TEACCHカンファレンス イン 大阪 (TEACCHプログラム研究会15周年記念事業)	大阪メルパルク
2月25日(水)	【共通】神奈川支部総会 & 「ノルウエー リポート」(仮題) 講師 小野 貴三江氏	* ふきのとう向生舎 2. 3階
3月24日(水)	【基礎】「TEACCHについて」 講師 諏訪 利明 【応用】「外出プログラムの実践報告」	*
4月21日(水)	【基礎】「自閉症について」 講師 諏訪 利明 【応用】「幼児期の移行計画について」	*
5月19日(水)	【基礎】「評価について」 講師 諏訪 利明 【応用】「コミュニケーションサンプル」	*
6月16日(水)	【基礎】「PEP-Rについて」 講師 諏訪 利明 【応用】「コミュニケーション指導の実際」	*
7月21日(水)	【基礎】「コミュニケーションについて」講師 諏訪 利明 【応用】「実践報告会」	*
8月	【講演会】「自閉症の社会性とその対応について」(仮題) 講師 未定	未定
9月15日(水)	【基礎】「仮題分析について」 講師 諏訪 利明 【応用】「家事スキル」	*
10月20日(水)	【基礎】「自立について」 講師 諏訪 利明 【応用】「連携について part4」	*
11月17日(水)	【基礎】「余暇について」 講師 諏訪 利明 【応用】「思春期について」	*
12月15日(水)	【基礎】「行動マネジメント」講師 諏訪 利明 【応用】「CARSについて」	*

☆ 愛知支部

<p>1 基礎講座 自閉症の特性、コミュニケーション、構造化について 入門的なお話。 講師;坂井聡 先生 日時;6月5日 一日かけて行います。 場所;名古屋市総合福祉会館</p> <p>2 事例検討会(実施済み) (1)講師;小野宏 先生 日時;3月20日 午後 場所;愛知県中小企業センター</p> <p>(2)12月頃にも実施予定 詳細未定</p> <p>3 講演会 (1)学校卒業後の支援について(実施済み) 講師;志賀利一 先生 1月18日 場所;ウイルあいち</p>	<p>(2)内容未定 講師;佐々木正美 先生 日時;9月18日(日)時間未定 場所;ウイルあいち></p> <p>4 トレーニングセミナー イン 愛知 実行委員会を結成して計画の実施に向けて活動中。 講師;諏訪利明、藤岡 宏、村松陽子、新澤 伸子、 野畑光代 の各先生の予定で計画進行中 募集人員;20名 参加費;5万円 日時;8月20日-22日 場所;大府市 福祉会館</p> <p>5 小グループによる自主勉強会 随時行う予定であるが、日時は未定</p> <p>6 その他 (1)支部会報; T-AICHI発行 年2回発行予定 (2)トレセミ通信 二回 発行予定 (3)支部会員のメーリングリストも運営中</p>
--	---

☆ 石川支部

- 1月11日(日)13:00~13:30 第2回 総会
13:45~16:00 講演会 奥平綾子氏「自閉症児ダダ君の暮らし」
- 3月14日(日)9:30~12:30 第13回 定例会「高機能自閉症について」
講師・アドバイザー 金沢大学教育学部 大井学氏
- 4月11日(日)9:30~11:30 2004「自閉症の療育」連続セミナー第1回
講師 井深允子氏 (滋賀県立心身障害児総合療育センター)
内容 自閉症の特性について 場所 金沢駅西健康ホール「すこやか」
- 5月8日(土)13:30~15:30 2004「自閉症の療育」連続セミナー第2回
講師 野畑光代氏 (京都府立向ヶ丘養護学校)
内容 構造化について 場所 金沢駅西健康ホール「すこやか」
- 6月13日(日)9:30~11:30 2004「自閉症の療育」連続セミナー第3回
講師 坂井聡氏 (香川大学教育学部附属養護学校)
内容 自閉症を持つ人へのコミュニケーションを支援する
場所 石川県地場産業振興センター
- 7月11日(日)9:30~11:30 2004「自閉症の療育」連続セミナー第4回
講師 諏訪利明氏 (海老名市立わかば学園長)
内容 問題行動への対応 場所 金沢駅西健康ホール「すこやか」
- 9月 (未定) 第15回 定例会
- 10月23日(土)午後 明石洋子氏 能登講演会 場所 能登空港会議室
- 10月24日(日)13:30~15:30 明石洋子氏 金沢講演会 場所 金沢駅西健康ホール
- 11月・12月(未定) 定例会



☆ 京滋支部

- 3月 6日(土) 13:30~16:00 場所:野洲中央公民館
例会「保育園・幼稚園と療育教室の連携」 話題提供:野洲郡にここ教室
- 4月17日(土) 13:30~16:00 場所:ハートピア京都
講演会 「自閉症—精神科医療の視点から—」 京都市児童福祉センター 門真一郎氏
16:00~16:30 2004年度 総会
- 5月 (滋賀自閉症研究会たんぽぽ)の基礎講座
- 6月 (滋賀自閉症研究会たんぽぽ)と(京都自閉症協会)の基礎講座
- 7月 (滋賀自閉症研究会たんぽぽ)と(京都自閉症協会)の基礎講座
- 9月 4日(土) 13:30~16:00 場所:ハートピア京都(予定)
例会「学校校内の連携」 話題提供:京都の養護学校から
- 10月2日(土) 13:30~16:00 場所:ハートピア京都(予定)
例会「激しい排泄におけるこだわりと取り組んで」
話題提供:横手通43番地「庵」 横田早苗氏・角藤展久氏
- 11月6日(土) 13:30~16:00 場所:野洲中央公民館(予定)
例会「豊かな成人期をおくるために」 話題提供:近江学園 田中氏
- 12月4日(土) 13:30~16:00 場所:野洲中央公民館(予定)
例会「学校から卒業後の生活への移行計画について」 話題提供:三雲養護学校

京滋支部会員の参加が原則ですが、会員外の参加も受け付けていますので、関心のある方は、ご参加ください。(会員外の参加費は1000円。)

< 問合せ先 > 京滋支部事務局 藤井依子(所属 甲賀郡こじか教室)

Fax 077-562-8980 e-mail yori_fu@ybb.ne.jp

☆ **大阪支部**

<p>1. 定例月例会</p> <p>■ 5月15日(土) テーマ:「自閉症の特性の理解」 講 師:鈴木 典子氏(ボバース記念病院 小児神経科) 会 場:堺市総合福祉会館 大研修室 ★大阪支部総会 例会終了後(4:30~5:00)同会場にて行います。</p> <p>■ 6月19日(土) テーマ:「評価」 講 師 :小林 一恵氏(大阪府立中宮病院松心園) 会 場: 堺市総合福祉会館 大研修室</p> <p>■ 7月17日(土) テーマ:「構造化」 講 師:谷山 悦子氏(河内長野市立長野小学校) 会 場 : 堺市総合福祉会館 大研修室</p> <p>■ 9月18日(土) テーマ:「コミュニケーション」 講 師:井上 芳子氏(大阪市更生療育センター) 会 場 :堺市総合福祉会館 大研修室</p>	<p>■ 11月20日(土) テーマ:「行動上の問題の理解と対応」 講 師:浅井 郁子氏(堺市立御池台小学校) 会 場:堺市総合福祉会館(予定)</p> <p>2、公開講座 日 時:平成 16 年 10 月9日(土) 午後2:00~5:00 (受付1:30~) 会 場:コミュニティープラザ大阪 コンポホール テーマ:「高機能自閉症の理解と支援」 講 師:杉山 登志郎氏(あいち小児保健医療総合センター) 会 費:会員 1000円 / 非会員 1500円</p>
---	---

☆ **兵庫支部**

兵庫TEACCH活動報告

昨年の夏、発足しましたが、いまだに準備段階です(^_^)

ま、ゆるゆるやっています。もともと大きな組織をめざすものではなく、それぞれの地域に芽生えた支援の輪を、草の根的に結んでいく、情報共有の場になれば、と思っています。5年間のTAS(丹波自閉症協会)の活動をもとに、神戸自閉症児のためのクラスルーム研究科など同じような活動をしてきたところと、そして勉強する気のあるさまざまな学校、施設の方々と連携していきたいと思っています。みなさまよろしくお願ひします。

☆ **鳥取支部**

	鳥 取	境 港
1 月	休み	31 日ミニカンファレンス 講師吉野邦夫先生
2 月	総会 PEP-R 研修会	輪読、課題作り
3 月	「自閉症の人への就労支援」(古谷護)	輪読、課題作り
4 月	実践発表(かちみ園)	輪読、課題作り
5 月	基礎講座	輪読、課題作り
6 月	基礎講座	輪読、課題作り
7 月	実践発表(松の聖母学園)	輪読、課題作り
8 月	実践発表(羽合ひかり園)	輪読、課題作り
9 月	服巻智子先生講演会(自閉症協会主催)	輪読、課題作り
10 月	講義「自立課題の組み立て方」(川上)	輪読、課題作り
11 月	自立課題発表(松の聖母学園、かちみ園、 第2かちみ園、羽合ひかり園)	輪読、課題作り
12 月	実践発表(第2かちみ園)	輪読、課題作り

基礎講座(予定) 毎月1回中部地区の会場で開催予定

- 1、講義 「自閉症の特性」(小枝)6月6日(日)学びタウン東伯
- 2、講義 「構造化」(川上)
- 3、講義 「コミュニケーション」(入江)
- 4、講義 「問題行動」(入江)

☆ 香川支部

2月22日 平成16年度新規会員総会

「私の子育てについて・近況報告」：丸岡玲子さん

3月21日 「確かな社会参加につなげるためには～香大附属養護の実践から」

：香川大学教育学部附属養護学校 森近 勇先生

4月18日 「TEACCHから学ぶこと」「ソーシャルスキルを育てる」

：香川大学教育学部附属養護学校 西村 健一先生

5月16日 「自閉症へのコミュニケーション支援」

：香川東部養護学校 高原 淳一先生

6月20日 「支援費でできるあんなこと、こんなこと～社会資源を活用したより豊かな生活づくり」

：地域療育等支援事業コーディネーター

生活支援センターのぞみ 草原 比呂志先生

7月18日 「学習指導の方法・構造化のアイデア」

「成人と青年期における評価の方法～AAPEPについて」

：香川丸亀養護学校 滝澤 健先生

8月 ☆施設見学(未定)

9月19日 「問題行動＝本人が困っている行動へのアプローチ」

：香川東部養護学校 藤田 明先生

10月17日 ☆公開講演会「演題未定」

：自閉症サポート企画・OMEMEDO 奥平 綾子先生

(ダダ母改めハルヤンネ)

※会員外の方もご案内します。

11月21日 「自閉症への医療面からのアプローチ」

：香川大学教育学部教授 絵内利啓先生

12月19日 平成16年度末総会

「テーマ未定」：香川大学教育学部附属養護学校 坂井 聡先生

※内容、講師は変更する場合があります。

☆ 福岡支部

4月17日(土) 例会 ふくふくプラザ 13:30～16:00

基礎コース「構造化について」講師 西南学院大学 井上哲雄先生

実践コース 実践報告会 ともに考えよう「家庭支援」

5月22日(土) 講演会 あいあいセンター 大研修室 13:30～16:00

テーマ「TEACCH 概要 ―そして日本でTEACCHを生かすには―」

講師 中山清司氏 仲町台発達センター

6月19日(土) 例会 ふくふくプラザ 13:30～16:00

基礎コース「自閉症のコミュニケーション」

実践コース 実践報告会

8月25日(水)26日(木)「自閉症療育者のためのミニトレーニングセミナー」

* 2日間に渡り自閉症児者の方にご協力いただき、評価結果から構造化、課題設定、実施、そして再構造化のプロセスを実際に経験し、そこからひとり一人に合わせた支援について学習するセミナーです

講師(予定) 諏訪 利明氏 井上 哲雄氏

田中 正哉氏 服巻 繁氏

緒方よしみ氏 ほか

*参加者募集要綱等、詳細は追ってご連絡いたします

9月18日(土) ミニトレーニングセミナー受講者による報告会

10月16日(土) 例会

11月20日(土) 例会

12月11日(土) 記念講演会・総会

講演テーマ「自閉症と余暇活動について」

講師 安部陽子先生 横浜市東部地域療育センター

* T研福岡支部ホームページができました。 <http://www.f-teacch.or.tv/index.html>
postmaster@f-teacch.or.tv

☆ 佐賀支部

佐賀県支部では、初心者向けの自閉症支援の啓発と実践の普及を目指して年間9回の講義と4回の事例発表を計画しました。講義では、自閉症の支援方法について基本的な事柄の理解を目的として実施します。そのうち2回は、佐賀以外から講師をお呼びして先進的な取り組みについて発表してもらいます。4回の事例発表のうち3回は、まだ構造化などを取り入れていない作業所で、新たに構造化を導入し改善の取り組みについて随時発表してもらい、具体的な実践方法の紹介をもらいます。残りの1回は、学校での具体的な取り組みを紹介してもらいます。

期日	講義内容	講師	事例発表
4月17日	「自閉症の理解」	服巻繁	
5月15日	「問題行動の改善」	伊藤啓介	つばき作業所
6月19日	「物理的構造化」	未定	
8月21日	「スケジュール」	未定	つばき作業所
10月16日	「幼児期の支援」	諏訪利明(交渉中)	
11月6日	「成人期の支援」	藤村出	
12月18日	「ワークシステム」	未定	つばき作業所
1月15日	「視覚的構造化」	未定	学校(検討中)
2月19日	「コミュニケーション」	未定	

☆ 熊本支部

1月10日(土) 総会 および 基礎講座1 講師:服部陵子氏

* 2月7・8日 TEACCHカンファレンスin大阪 実践報告(8日:青年成人期)

野の島学園 石丸 弘二 氏「通所施設における家庭への支援」

2月21日(土)・22日(日)

ミニセミナー「構造化と家事スキル」

講師:諏訪利明氏 安倍陽子氏

4月17日(土) ミニセミナー報告

6月 基礎講座2

7月 講演会

期日未定 実践報告会

12月4日(土)・5日(日) ミニセミナー予定

ミニセミナーを年度末にも予定しています。今年も頑張っていきましょう!!